

平成23年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成22年9月14日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 銚子丸
コード番号 3075 URL <http://www.choushimaru.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀地速男

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 大塚健一

四半期報告書提出予定日 平成22年9月28日

TEL 043-350-1266

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年5月期第1四半期の業績(平成22年5月16日～平成22年8月15日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年5月期第1四半期	4,469	12.6	382	69.3	399	74.8	181	45.1
22年5月期第1四半期	3,970	10.8	225	321.5	228	216.4	125	173.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年5月期第1四半期	62.50	—
22年5月期第1四半期	861.69	—

(注)平成21年11月16日付にて、普通株式1株につき20株に分割しております。そのため22年5月期第1四半期の1株当たり純利益については、当該株式分割が行われる前の数値を記載しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年5月期第1四半期	6,844	3,593	52.5	1,237.54
22年5月期	6,339	3,451	54.4	1,188.59

(参考) 自己資本 23年5月期第1四半期 3,593百万円 22年5月期 3,451百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年5月期	—	—	—	13.50	13.50
23年5月期	—	—	—	—	—
23年5月期(予想)	—	—	—	13.50	13.50

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年5月期の業績予想(平成22年5月16日～平成23年5月15日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	8,243	5.2	419	△3.7	437	△4.1	211	△15.3	72.85
通期	17,250	4.7	982	4.4	1,008	3.1	525	0.0	181.13

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】3ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年5月期1Q 2,903,600株 22年5月期 2,903,600株

② 期末自己株式数 23年5月期1Q 141株 22年5月期 80株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年5月期1Q 2,903,498株 22年5月期1Q 145,176株

(注)平成21年11月16日付にて、普通株式1株につき20株に分割しております。そのため、22年5月期1Qの株式数については、当該株式分割が行われる前の数値を記載しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期会計期間におけるわが国の経済は、アジア向けを中心とした輸出の増加や、中国・インド等の好調な新興国の需要に牽引され、国内需要も一部回復の兆しが見られたものの、欧州の財政不安に端を発した為替、株式市場の混乱は続いており、国内景気は依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましても、厳しい雇用情勢、所得の減少に加え、エコポイントなどの景気対策も効果が一巡し、消費者の生活防衛意識の高まりから外食を手控える傾向はますます根強いものとなり、厳しい環境で推移しております。

このような状況の中、当社は経営理念に掲げる「私達の真心を提供し、お客様の『感謝と喜び』を頂くことを私達の使命と致します。」を徹底することはもとより、「銚子丸ブランド」の一層の強化に向けて、国内、海外を問わず高品質で安心、安全な食材を使用した「お得感」のあるメニュー開発を継続するとともに、ホール責任者を「女将(おかみ)」と位置づけ、親切・思いやり、誠実さに溢れた接客、サービスの追求に努めました。

店舗開発につきましては市場規模、ならびに顧客ニーズを勘案し、相模原中央店(平成22年6月)及び八王子店(平成22年7月)を新規に出店し、当第1四半期会計期間末の店舗数は73店舗となりました。

販売促進ならびに商品開発につきましては、「北海道vs銚子港」「旬祭り!初夏の競演」「銚子丸&トルコ、本まぐろ祭」等、時節の旬の食材によるイベントの開催およびセットメニュー・サイドメニューの充実を図り、お客様の来店動機の高揚に努めてまいりました。

以上の結果、売上高44億69百万円(前年同期比12.6%増)、営業利益3億82百万円(同69.3%増)、経常利益3億99百万円(同74.8%増)、四半期純利益1億81百万円(同45.1%増)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期会計期間末における資産は、前会計年度末に比べ5億4百万円増加し、68億44百万円(前期比8.0%増)となりました。主な要因は、次のとおりです。

流動資産は、前会計年度末に比べ3億66百万円増加し、38億9百万円(前期比10.6%増)となりました。増加の主な内訳は、現金及び預金3億1百万円の増加、店舗売上金の回収代行専門業者に対する預け金1億30百万円の増加であります。

固定資産は、前会計年度末に比べ1億37百万円増加し、30億34百万円(前期比4.8%増)となりました。これらは、当第1四半期会計期間において2店舗を新規出店したことによる店舗設備、敷金及び保証金の増加によるものであります。

(負債・純資産)

当第1四半期会計期間末における負債は、前会計年度末に比べ3億62百万円増加し、32億51百万円(前期比12.5%増)となりました。主な要因は、次のとおりです。

流動負債は、前会計年度末に比べ1億93百万円増加し、25億83百万円(前期比8.1%増)となりました。増加の主な内訳は、納税資金として調達した短期借入金2億55百万円の増加であります。

固定負債は、前会計年度末に比べ1億69百万円増加し、6億67百万円(前期比33.9%増)となりました。これは、当第1四半期会計期間より資産除去債務に関する会計基準を適用しており、資産除去債務が1億47百万円増加したことによるものであります。

また純資産は、前会計年度末に比べ1億42百万円増加し、35億93百万円(前期比4.1%増)となりました。これは当第1四半期の純利益1億81百万円に対し、第33期の期末配当金39百万円を支出したこと等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末と比較して3億円増加し、28億97百万円となりました。

当第1四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は1億73百万円となりました。主な内訳は、税引前四半期純利益3億37百万円、減価償却費58百万円、資産除去債務会計基準適用に伴う影響額61百万円などの資金の獲得、法人税等の支払額3億円など資金の使用があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は78百万円となりました。主な内訳は、新規出店による有形固定資産の取得69百万円などであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は2億6百万円となりました。主な内訳は、短期借入れによる純収入2億55百万円、配当金の支払39百万円などです。

(3) 業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、「すし銚子丸」業態に事業領域を集中し、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県の一都三県に出店地域を特化して新規出店を推進してまいります。

第34期(平成22年5月16日から平成23年5月15日まで)の新規出店数は、通期で4店舗を計画しており、このうち2店舗は既に出店済みでございます。

既存店の改装は通期で7店舗を計画しており、これに伴う修繕費用の増加を見込んでおります。

また、資産除去債務の計上に伴う初年度損失見込額を特別損失に見込んでおります。

以上のような状況から、通期の業績見通しにつきましては、売上高172億50百万円、営業利益9億82百万円、経常利益10億8百万円、当期純利益5億25百万円を見込んでおり、現時点で変更はございません。

但し、当社では、新規出店に際しては、店舗の採算性を重視しているため、計画した店舗数に見合った出店候補地を十分に確保できない場合や、食材に係る安全面の問題、市況変動等が生じた場合には、当社の業績見通しに影響を与える可能性があります。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 簡便な会計処理

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

② 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は法人税等合計に含めて表示しております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務)

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益は、それぞれ2,502千円減少し、税引前当期純利益は64,265千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は142,598千円です。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年8月15日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年5月15日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,334,143	3,032,783
売掛金	4,120	4,809
原材料及び貯蔵品	114,522	150,322
預け金	167,224	36,301
その他	189,706	218,990
流動資産合計	3,809,718	3,443,208
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,077,797	987,252
その他(純額)	557,828	532,236
有形固定資産合計	1,635,626	1,519,488
無形固定資産	20,333	20,895
投資その他の資産		
敷金及び保証金	731,990	718,671
建設協力金	363,098	372,784
その他	284,560	265,865
貸倒引当金	△1,078	△1,078
投資その他の資産合計	1,378,570	1,356,243
固定資産合計	3,034,530	2,896,627
資産合計	6,844,248	6,339,836
負債の部		
流動負債		
買掛金	902,500	893,283
短期借入金	375,000	120,000
未払金	803,907	792,764
未払法人税等	191,042	324,991
引当金		
賞与引当金	38,510	67,000
その他の引当金	13,582	17,412
引当金計	52,092	84,412
その他	258,881	174,832
流動負債合計	2,583,425	2,390,285
固定負債		
資産除去債務	147,189	—
長期未払金	359,700	359,700
その他	160,785	138,764
固定負債合計	667,675	498,464
負債合計	3,251,100	2,888,749

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年8月15日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年5月15日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	315,950	315,950
資本剰余金	236,829	236,829
利益剰余金	3,040,813	2,898,535
自己株式	△329	△176
株主資本合計	3,593,263	3,451,138
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△116	△52
評価・換算差額等合計	△116	△52
純資産合計	3,593,147	3,451,086
負債純資産合計	6,844,248	6,339,836

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年5月16日 至平成21年8月15日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成22年8月15日)
売上高	3,970,106	4,469,995
売上原価	1,671,117	1,820,241
売上総利益	2,298,989	2,649,754
販売費及び一般管理費	2,073,057	2,267,203
営業利益	225,931	382,551
営業外収益		
受取利息	1,945	1,623
協賛金収入	1,633	12,896
その他	946	4,861
営業外収益合計	4,525	19,381
営業外費用		
支払利息	906	1,402
現金過不足	1,121	1,499
その他	150	15
営業外費用合計	2,179	2,917
経常利益	228,278	399,015
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	61,763
特別損失合計	—	61,763
税引前四半期純利益	228,278	337,252
法人税等	103,181	155,776
四半期純利益	125,096	181,475

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成21年5月16日 至 平成21年8月15日)	当第1四半期累計期間 (自 平成22年5月16日 至 平成22年8月15日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	228,278	337,252
減価償却費	46,443	58,622
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	61,763
建設協力金と相殺した地代家賃・賃借料	11,283	10,907
賞与引当金の増減額(△は減少)	△58,195	△28,490
受取利息及び受取配当金	△1,954	△1,632
支払利息	906	1,402
売上債権の増減額(△は増加)	△5,756	689
たな卸資産の増減額(△は増加)	28,186	35,799
仕入債務の増減額(△は減少)	△105,109	9,216
未払消費税等の増減額(△は減少)	14,837	4,351
その他	33,865	△15,890
小計	192,785	473,991
利息及び配当金の受取額	1,673	930
利息の支払額	△1,036	△1,448
法人税等の支払額	△122,166	△300,314
営業活動によるキャッシュ・フロー	71,255	173,157
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△322,173	△322,733
定期預金の払戻による収入	321,145	322,173
有形固定資産の取得による支出	△40,630	△69,280
無形固定資産の取得による支出	△3,069	—
敷金及び保証金の差入による支出	△20,020	△10,000
敷金及び保証金の回収による収入	—	1,431
投資活動によるキャッシュ・フロー	△64,746	△78,408
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	300,000	350,000
短期借入金の返済による支出	△60,000	△95,000
長期借入金の返済による支出	△375	—
リース債務の返済による支出	△5,187	△9,549
自己株式の取得による支出	—	△153
配当金の支払額	△28,246	△39,246
財務活動によるキャッシュ・フロー	206,191	206,051
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	212,699	300,800
現金及び現金同等物の期首残高	1,926,415	2,596,519
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,139,115	2,897,319

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第1四半期累計期間(自 平成22年5月16日 至 平成22年8月15日)
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期累計期間(自 平成22年5月16日 至 平成22年8月15日)
該当事項はありません。